

私は耳が不自由です
 ↑ 戸田市議会議員 無所属 38歳
 心の声が聴こえる街へ

たかのぶ 佐藤 太信



プロフィール

- 昭和55年5月18日生 ● 2歳の頃に失聴
- 市立戸田東小学校卒・市立戸田東中学校卒 ● 県立浦和商業高校卒
- 中央大学法学部卒 ● 大正大学大学院修了(臨床心理学)
- CAオーロニカレッジ留学 ● 東京電力入社(安全管理業務)
- 児童福祉施設(社会福祉法人)
- 都内ろう学校(スクールカウンセラー、乳幼児教育相談)
- 専門学校講師

【所属】埼玉県聴覚障害者協会前理事、戸田市聴力障害者協会、戸田市身体障害者福祉会理事
 【資格】臨床心理士、第二種電気工事士【家族】妻(バイオリニスト)
 【趣味】温泉めぐり、マラソン 【座右の銘】継続は力なり

イベント

タウンミーティング(意見交換会)

戸田市で生活している日頃から感じている悩み、課題について話しませんか。

日時:平成30年7月22日(日)10時~12時
 場所:あいパル(上戸田地域交流センター)多目的室1 手話通訳あり



ご挨拶

さわやかな風が吹き渡る季節となりました。市議会議員1年目を終え、2年目を迎えました。市民の目線に立ち、公正かつ公平な立場からより良い街づくりを進めるために全力で取り組んでまいります。皆様からの率直なご意見やご要望をお寄せくださいますよう、よろしくお願い致します。



活動報告

産経新聞に掲載されました

(平成30年2月21日)
 障がいがある事(ハンデ)は決してマイナスではありません。障がいがあっても、障がいのある当事者とその家族誰もが希望を持てるような社会になることは当たり前のことだと思います。一つ一つの小さな積み重ねを市民の皆様と築いていきたいです。



パラスポーツフェスタに参加しました

(平成30年1月27日)
 スポーツセンターにて第4回パラスポーツフェスタが開催され、ウィルチェアラグビーを体験しました。ウィルチェアラグビーとは、車椅子ラグビーのことで、2020東京パラリンピックの競技種目となっています。市内在住の現役選手から実際にタックルを受けました。大きな衝撃、身体全体に響いた感覚は今でも忘れられません。もっと多くの方々に知っていただきたいイベントです。



「逆」に私の強み」
 「当初は市の職員や他の議員の方々が戸惑いがあったと思います。佐藤さんは当選直後の周囲の様子を率直に語る。一埋められない差があるのは実感しました。でも逆にそれを「私の強みなんだ」と思うようになりました」
 2歳のときに聴力を失った。静かな場所で1対1なら補聴器を用い、相手の唇の動きを見ながらここで会話はできる。しかし、議場では発言者の言葉は聞き取れない。議席の前に手話通訳が2人降り、交代で佐藤さんに手話を行う。ところが、進行が速く専門用語が飛び交う議場では手話通訳だけでは情報が補えない。そこでマイクを通して拾った声が文字に変換される音声認識システムも導入した。「これらはすべて市民の税金から支払われていて感謝しています。市議として市民生活をよくするために選んでほしいです」
 昨年1月の戸田市議選で初当選した佐藤太信さん(37)は、全国で4例目となる聴覚障害のある地方議員。市議を1年間務め、「自分の強み、立ち位置を再認識できた」と振り返る。2年目を迎え、座席の銘である「継続は力なり」を胸に、すべての人に優しい街づくりに取り組む。
 (大塚和範、写真も)
 欠かさず一般質問
 初当選以降、定例会の一般質問を欠かさず行っている。「初めはおかしいと感じた部分を早く変えたい」と思っていました。今、すでに変わることは難しいことも分かりました。今はできることを一つずつ積み重ねていくことが大事だと思います。
 パス停の点字ブロックが削がれているとの情報が入れば、市に掛け合って修整してもらおう。鼻が作成した新生児聴覚スクリーニング検査のパンフレットを、母子手帳発行時に挟んで手渡すようにしてもらおう。まさに小さなことの積み重ねだ。
 21日、佐藤さんは3月定例会で一般質問に立つ。主にバリアフリーや介護支援がテーマだ。「これまでの継続にプラスし、より積極的に前に進んでいきたい」

